

テーマ: 「生活者と企業をつなぐ～消費者市民社会・消費者志向経営の実現に向けて～」

日時: 2018年12月17日(月) 15:30～17:00
場所: 神戸学院大学 有瀬キャンパス
参加者: 神戸学院大学 現代の社会(消費者問題)履修学生 192名

関西支部会員の川口徳子が講義を行いました。

<講義内容>

日本ヒーブ協議会とは

1. 生活者と企業のギャップ

- ・突沸とは、生活力アップのための基本5カ条
- ・ひとり暮らしの若者へのアドバイス「情報カード」

2. 消費者市民社会とは

「お客様の声を活かした取り組み事例55事例」

3. 消費者志向経営とは

- ・商品開発の流れで考える: 商品開発フロー例、開発秘話「石窯工房」
- ・商品改善の流れで考える: お客様の声を分析して改善・開発に活用、改善事例「中華名菜」他

4. ニッポンハムグループのコミュニケーションの機会づくり



☆いただいた感想のご紹介☆

<講義はいかがでしたか？>

- ・普段意識していなかったが、商品がいかに消費者視点で日々改善されているということが解った。これからそういう視点を意識して、商品を見ても面白いかと思った。
- ・生活者の視点と企業側の視点では、必然的にギャップが生じるので、消費目線で見ながら、企業で働くというスタンスを取っている日本ヒーブ協議会の方々は、両方の視点で仕事を進められているので、素晴らしい取り組みをされているな、と思った。

<「消費者市民社会」「消費者志向経営」に対して、一人の消費者として、どう行動すべきか？自分に何ができるか？>

- ・今まで、不良品が来た時は「運が悪かった」と思って何もしていなかったが、ちゃんと悪い点を言うことが企業にとっても、私たちにとっても大事なものだと思ったので、これからはちゃんと悪かった点を書いて行きたいと思います。
- ・企業の商品開発に自らの意見が反映されることを自覚して、社会への影響を考えた消費行動をする。
- ・自分が購入した製品や企業に対し、興味・関心を持つことが、まず必要だと感じた。

<講義全体を通じての意見・感想>

- ・これからの社会ではもっと企業と消費者と繋がりが密接なものとなれば良いと思った。講義の内容を見れば、消費者は企業におけるもう一つの開発部門だと考える。もっと消費者側から意見を言って企業と共に、より良い商品がどんどん生まれる世の中へと変化して行ければ良いと思う。
- ・企業の方々が消費者のことを考え、行動する姿勢が大事、かつ凄いことだなと改めて思いました。